

日本電気硝子 (コード 5214)

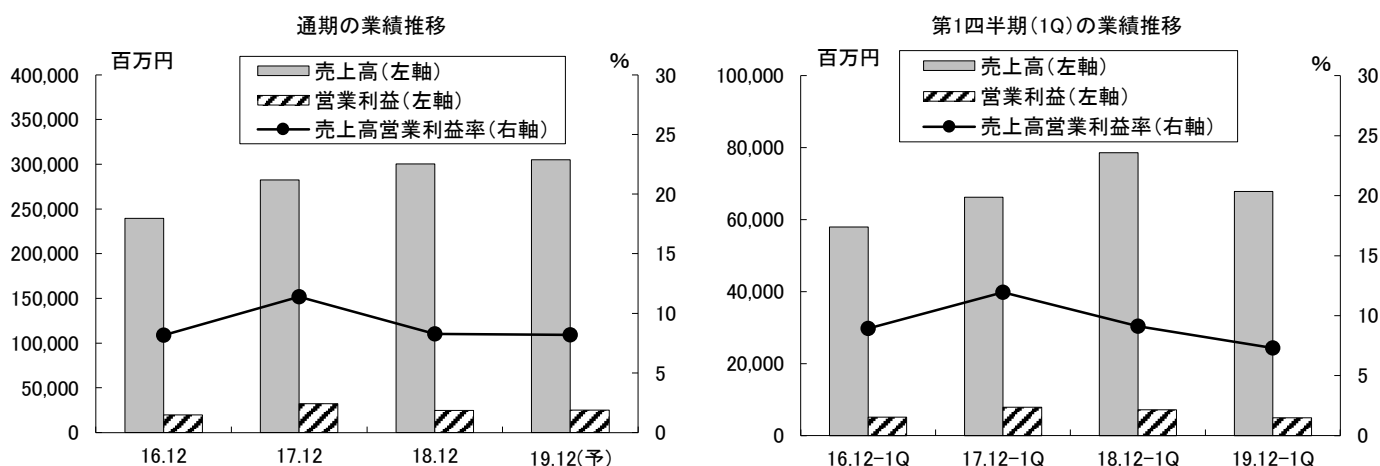
◆各決算期の第1四半期業績推移(連結) (株式併合を考慮。18.12より第1四半期のCFは非開示)

決算期	売上高	営業利益	1株純利益	1株配	営業CF	投資CF	財務CF	現金及び現金同等物
16.12	57,998	5,179	6.5	—	7,285	▲7,851	▲3,149	128,984
17.12	66,245	7,915	41.7	—	12,336	▲5,074	▲6,296	126,714
18.12	78,609	7,162	31.5	—	—	—	—	—
19.12	67,809	4,947	40.1	—	—	—	—	—

◆通期業績推移(連結) (19.12予は会社側予想。1株利益、1株配は株式併合を考慮)

決算期	売上高	営業利益	1株純利益	1株配	営業CF	投資CF	財務CF	現金及び現金同等物
16.12	239,411	19,571	50.0	80.0	48,261	▲36,138	▲17,624	126,167
17.12	282,447	32,201	273.3	90.0	46,159	▲68,644	9,797	113,835
18.12	300,326	24,865	154.3	100.0	52,002	▲19,551	▲28,503	116,248
19.12予	305,000	25,000	186.3	110.0	—	—	—	—

(CF=キャッシュ・フロー。現金及び現金同等物は各期末値。▲はマイナス。単位は百万円、円)



19年12月期の第1四半期業績概況…19年12月期第1四半期(19年1~3月)の業績は、売上高678億900万円(前年同期比13.7%減)、営業利益49億4,700万円(同30.9%減)、経常利益63億2,600万円(同23.4%増)、親会社株主に帰属する四半期純利益(以下、四半期純利益)38億7,700万円(同23.8%増)となった。主力の液晶ディスプレイ(LCD)用基板ガラスやガラスファイバにおいて得意先の生産調整などの影響によって出荷が減少。売上高、営業利益は減少したが、主として一部の海外子会社への融資にかかる債権債務の評価替えの結果、前年同期の為替差損(営業外費用)に対し、当四半期は為替差益(営業外収益)が計上されたことから、経常利益、四半期純利益は増加した。

製品区分別の売上高(億円未満は切捨て)では、「電子・情報」が352億円(前年同期比9%減)、「機能材料・その他」も325億円(同19%減)に減少した。「電子・情報」については、LCD用基板ガラスは、得意先の生産調整などの影響を受けて出荷が減少した。モバイル端末用カバーガラス(化学強化専用ガラス)、電子デバイス用ガラスは季節要因の影響を受けたものの、全般的には底堅く推移。光関連ガラスや太陽電池用基板ガラスは低調となった。「機能材料・その他」については、ガラスファイバは、主として自動車部品向け高機能樹脂用途や風力発電用風車ブレード用途において得意先の生産調整の影響を受けて出荷が減少。耐熱ガラスや建築用ガラ

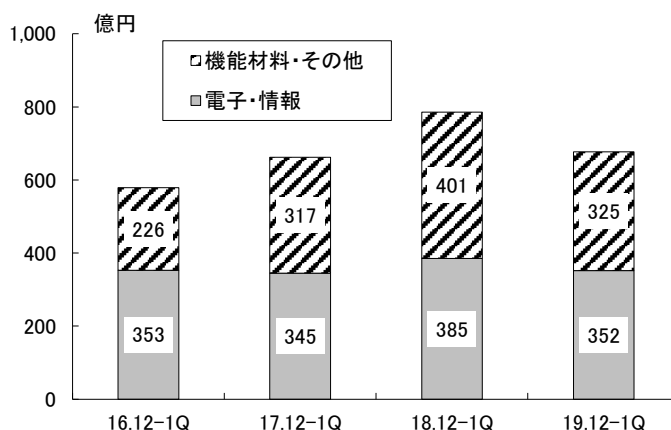
スは低調に推移した。

損益面では、販売の減少に加え、米国ガラス繊維事業子会社の生産性改善の遅れや原燃料価格の上昇などが影響し、営業利益は減少。売上高営業利益率も7.3%（前年同期9.1%）へ低下した。一方、一部の海外子会社への融資にかかる債権債務の評価替えによる為替差損益の発生において、前年同期の為替差損（営業外費用、17億6,900万円）に対し、当四半期は為替差益（営業外収益、10億5,200万円）を計上したことなどから、経常利益、四半期純利益は増加した。

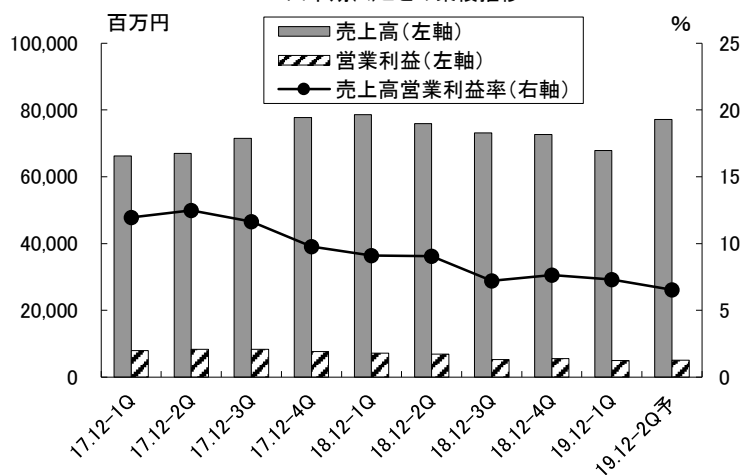
19年12月期の業績見通し…19年12月期の業績について、通期では、売上高3,050億円（前期比1.6%増）、営業利益250億円（同0.5%増）、経常利益220億円（同10.9%増）、親会社株主に帰属する当期純利益180億円（同18.4%増）の見通しで、1株当たりの年間配当金は110円の予定。また、第2四半期累計期間（19年1～6月）では、売上高1,450億円（前年同期比6.2%減）、営業利益100億円（同28.8%減）、経常利益90億円（同22.3%減）、四半期純利益80億円（同1.0%減）の見通しで、1株当たりの当四半期末配当金は50円の予定となっている。通期予想、第2四半期累計期間予想とも、19年2月5日発表の会社側予想値から変更されていない。

会社側では、「電子・情報」の分野については、LCD用基板ガラスの出荷は緩やかに伸長し、電子デバイス用ガラスや光関連ガラスにおいても下期（19年7～12月）にかけて関連市場の需要動向に沿って復調していくと予想している。「機能材料・その他」の分野においては、ガラスファイバは在庫の調整一巡により緩やかな回復を見込む。医薬用管ガラスは下期にかけて中国の需要増加を拡販につなげ、耐熱ガラスや建築用ガラスは下期にかけて関連市場が回復するものと見込む。損益面では、生産性の改善や費用削減などの取り組みを通して、収益性の向上に努める方針。

第1四半期(1Q)の区分別売上高推移(億円未満切り捨て)



四半期(Q)ごとの業績推移



本レポートは、会社側が発表した決算短信や決算説明資料などに基づき作成しており、証券投資の参考となる情報の提供を目的としたもので、証券の売買を勧誘する目的で作成したものではありません。株式の売買取引には、約定代金に対して手数料が必要となります。また、株式は、株価の変動により損失が生じる恐れがあります。投資に関する最終決定は、投資家ご自身の判断でなされますようお願い致します。本レポートは各種データに基づいて作成していますが、その正確性・完全性を全面的に保証するものではありませんので、予めご了承下さい。なお、本レポートの著作権は西村証券に帰属しており、電子的・機械的などの方法を問わず、無断で本レポートを引用または複製、転送することを禁じます。